

■ムカシのミライの/マ:万国博記念公園

大阪府吹田市千里万博公園1-1 <http://www.expo70.or.jp>

大阪の地に1970年に開催された「日本万国博覧会」。「人類の進歩と調和」をテーマとして当時の未来都市が創造され、多くの人の記憶に残る伝説の博覧会となりました。現在その跡地には博覧会を記念した、「緑に包まれた文化公園」が整備されています。

■日本庭園

日本政府が出展した施設で、会期中は造園技術・文化を伝えるだけでなく、観客の休憩の場としても利用されていたそうです。

上代・中世・近代・現代(未来)と西から東に流れる水になぞらえて日本の庭園文化の進歩と調和を表現しています。



上代の立石や荒々しい州浜などを用いて泉を表現し、滝・溪流を経て海を表現した中世の州浜・枯山水に、背景となる山中には茶庭(下段写真)が隠されています。水はやがて広大な心字池へと流れ込み、近世の池泉回遊式庭園はスケール感で来訪者を圧倒します。雄大な流れは森の中へと消え、再び抽象的な石組みの現代の庭園に現れ、「回帰」を表現した蓮池に注がれます。



■自然文化園

パビリオン跡地に、人類の進歩に忘れられ失われた「緑」を取り戻す大いなる実験として、自立した森の再生が試みられています。

38年がたった今、人の手による管理、多様性のある森、花や紅葉などの見どころ、森を使った遊び、子どもと共に自然や農を学ぶ、資源循環…など、まさに公園や緑地に求められているあり方に答えるため、様々な人の知恵と力を借りて工夫がされています。



森を高い視点から見るソラード、開墾から有志が手作業で作った生産の森、生き物にふれあえるビオトープ、西大路の美しいビスタ景観、伐採した薪で発電、余熱を利用した足湯、のびのびと美しい単木の樹形、見どころ、学びどころが沢山ありました。

◇後記◇造園の技術と文化の集大成、これからの公園のあり方への実験など、楽しみや見どころだけでなく、いつ来ても学ぶべきことが多い場所です。これから、日本庭園では開園時間をずらし、ホテルの乱舞やハスの開花が見られるそうです。250円は安い!

竈 主人 (株)スペースビジョン研究所